

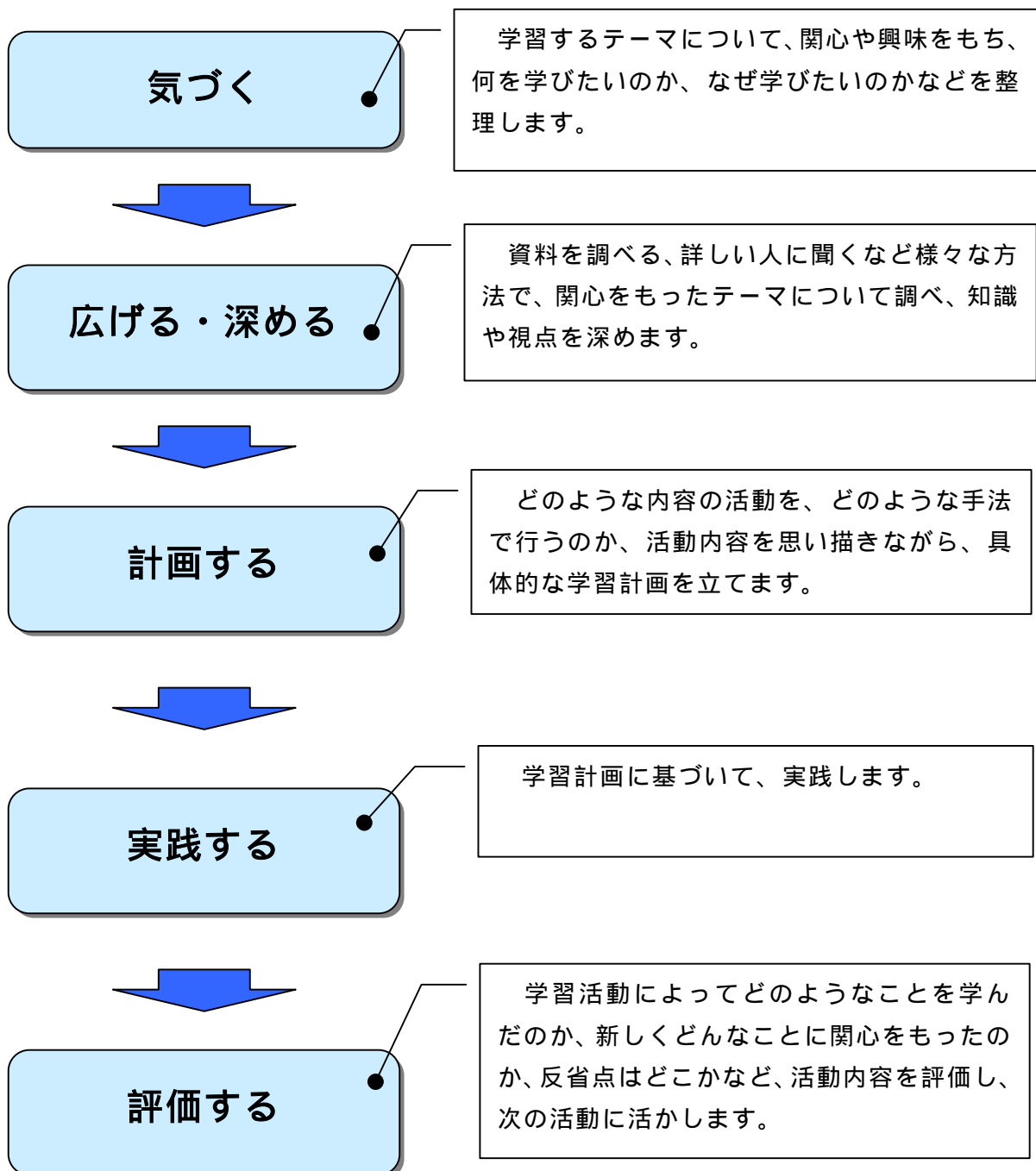
第6章 野外環境学習活動を充実させるために

1 学習活動の進め方

環境学習のねらいは、環境について学ぶことで自分と環境との関わりに気づき、環境のために行動できるようになることにあります。

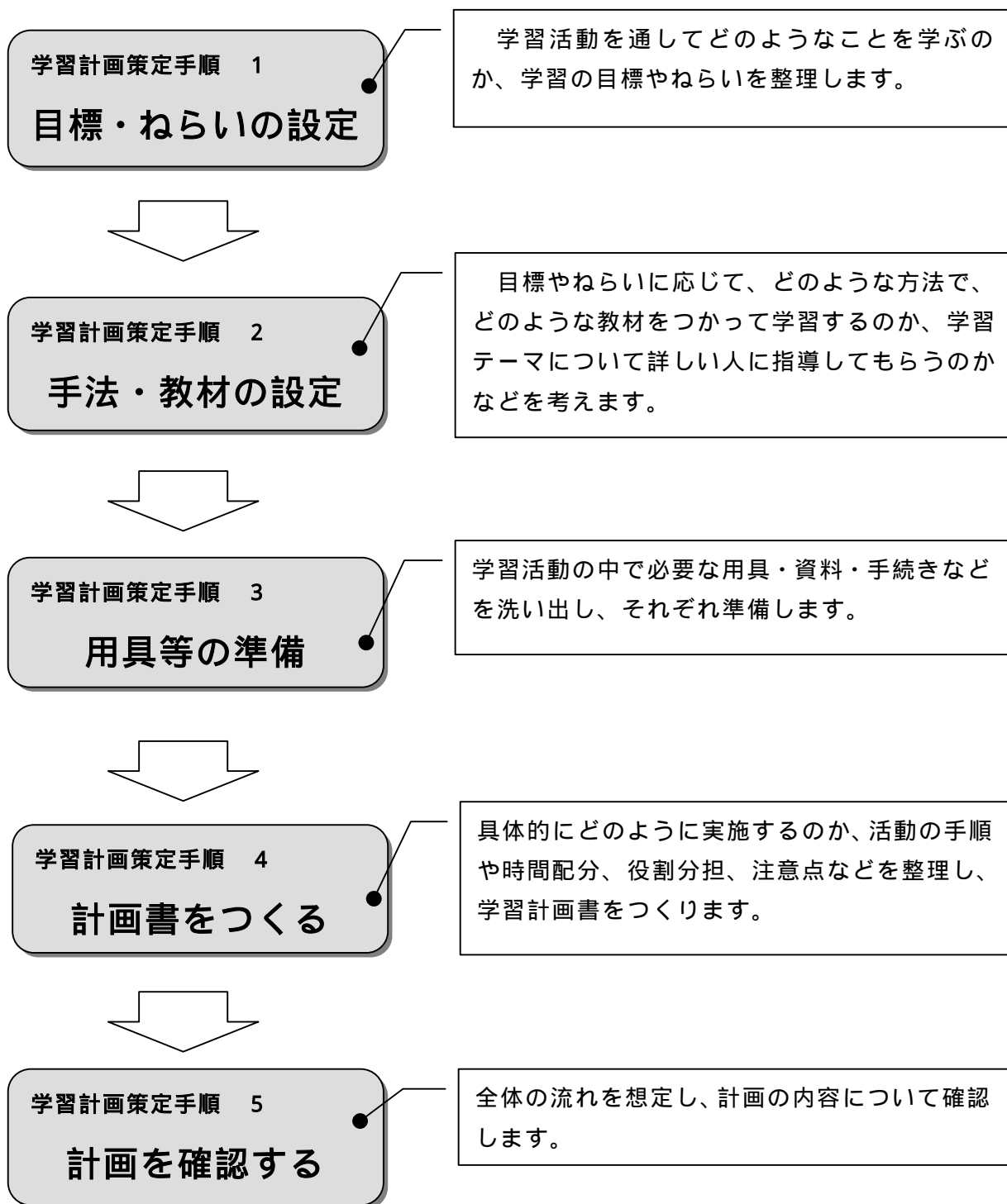
学習活動は、一度行ったらそれで終わりではありません。単に環境について知識を増やすだけでなく、活動した内容を次の学習活動や普段の生活・行動に活かせるようにすることが大切です。

学習活動を行うときは、より良い活動内容となるように、以下のような点を意識しながら、学習活動の展開を考えていくことが望めます。



2 学習計画を組み立てる

学習プログラムを実践するためには、学習の目標やねらいを設定し、実施方法、場所、道具などについて検討し、それぞれの活動にあった具体的な学習計画をたてる必要があります。



「学習計画を立てる」 学習計画書の例

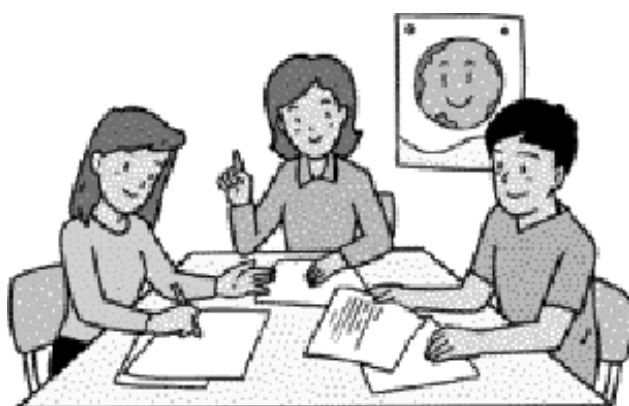
テーマ	草むらの「春」を探そう			
日時	年 3 月 5 日 (日) 10:00 ~ 11:30			
場所	地区内の田んぼ周辺			
参加者	子供会 親 5 名 子供 10 名			
資料など	参加者に配る資料		その他	
	調査票、筆記用具、クリップボード			
時間		場所	実施内容	実施方法
10:00	10 分	あぜ道のところ	集合・参加者確認 あいさつ 調査票の配布 説明	説明： さん
10:10	20 分	田んぼのあぜ道～田んぼ	生きもの探し	親子で組になって探す。
10:30	10 分	あぜ道のところ	見つけた生きものの報告	報告は子どもがする。
10:40	40 分	田んぼのあぜ道～田んぼ	生きものの説明と観察	全員で観察する。 説明： さん 観察したものを調査票にスケッチする。 分からなかったものに名前をつける。
11:20	10 分		まとめ・宿題	まとめ役： さん 見つけた生きものを振り返って、他の場所でも探してみるように話す。 分からなかった生きものについては、調べることを子どもたちの宿題にする。
11:30			終了・解散	

3 学習活動を評価し、次の活動に活かす

学習活動は、実施した後にその活動内容についてふりかえり評価することによって、次の行動に結び付き、取り組みを改善していくことにつながります。

評価のポイント

評価ポイント	内 容
学習効果	学習のねらい・目的にあった内容になっていたかどうか、参加者の感想などを参考にしながら振り返ります。
準 備	スタッフの役割分担が上手にできたか、用具や手続きなどの準備はきちんとできたか、連絡体制、安全管理などは充分だったかなどを反省します。
実 施	プログラムの進行が上手にできたか、スタッフの役割分担はきちんと遂行できたか、時間配分に無理がなかったか、予測していなかった事態に対して対処できたかなどを振り返ります。
次に活かすこと	上記の評価ポイントにおける反省点を踏まえて、どんな点をどのように改善すれば良いか、また、活動を通してどんなことに興味をもち、次回どのようなテーマ・内容の活動を行いたいかなどを整理します。



「学習プログラムを評価する」 ふりかえりシートの例

テーマ	草むらの「春」を探そう	
日時・場所	年3月5日(日) 10:00～11:30 地区内の田んぼ周辺	
記入者		
チェックポイント	評価内容	
	よくできたところ	よくできなかったところ
学習効果 学習のねらい・目的にあった内容になったか、参加者の感想はどうだったか。	子どもも大人も楽しく観察できたと思う。 「寒いけど、もう春なんだね」という感想があった。 オオイヌノフグリは、全員が覚えた。	生きものについて、もう少し説明ができれば、それぞれの生きものについて覚えやすかったと思う。
準備 スタッフの役割分担、用具、手続き、連絡体制、安全管理などは充分だったか。	安全面はよく気をつけた。 転んでひざをすりむいた子もいたが、すぐに手当でもでき、特に問題はなかった。	集まる場所は、もう少し広いところが良かった。 生きものの特徴をもっとよく調べておけばよかったと思う。
実施 プログラムはうまく進められたか、様々な状況に対応できたか。	予定どおり進行できた。 説明が充分にできない生きものがあったが、その分、みんなをよく観察できたと思う。	途中であきてしまう子どもがいた。もっと楽しめる工夫が必要だったと思う。
次に活かすこと 改善点、次回につなげたいテーマ、活動内容など	<ul style="list-style-type: none"> ・集合場所は、人数を考えて決めること。 ・次回行うときには、もう少し知識を増やし、子どもがあきない工夫をしたい。 ・違う季節にもやってみたい。 	